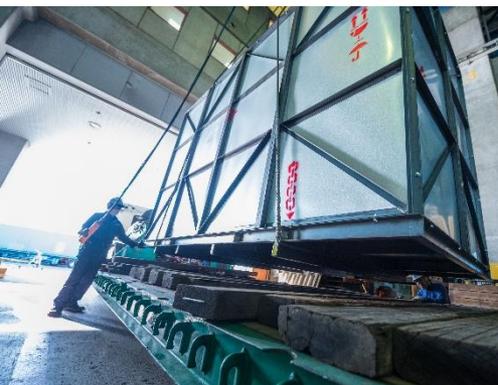


# 2019年3月期 決算説明会

地球をつつむ思いやり  
ロジスティクスパートナー サンリツ

株式会社サンリツ  
2019年6月3日

東証1部  
【証券コード：9366】



# 本日のご説明内容

## 1. 2019年3月期 決算概要：増収増益を達成

売上高：外部環境の好影響等を受け、小型精密機器及び工作機械取扱いが想定超え。

営業利益：前期獲得の制御システム案件が年間を通じ寄与。低採算案件撤退及び内製化により利益率改善。

## 2. 2020年3月期 業績予想：減収減益を見込む

- ・米中貿易摩擦による世界経済の停滞懸念を勘案するも、利益率は前期同水準を維持。
- ・海外（米国）を中心に2020年以降の成長に向け、経営資源を投入していく。
- ・年間配当予想額は28円、過去最高を維持。

- 1. 2019年3月期 決算概要** **P 2**
2. 中期経営計画の進捗状況 P 9
3. 2020年3月期 業績予想 P16
4. Appendix P27

# 1-1-1. 2019年3月期 決算概要

## ・ 増収増益達成／取扱いが想定を超え、各利益も伸長

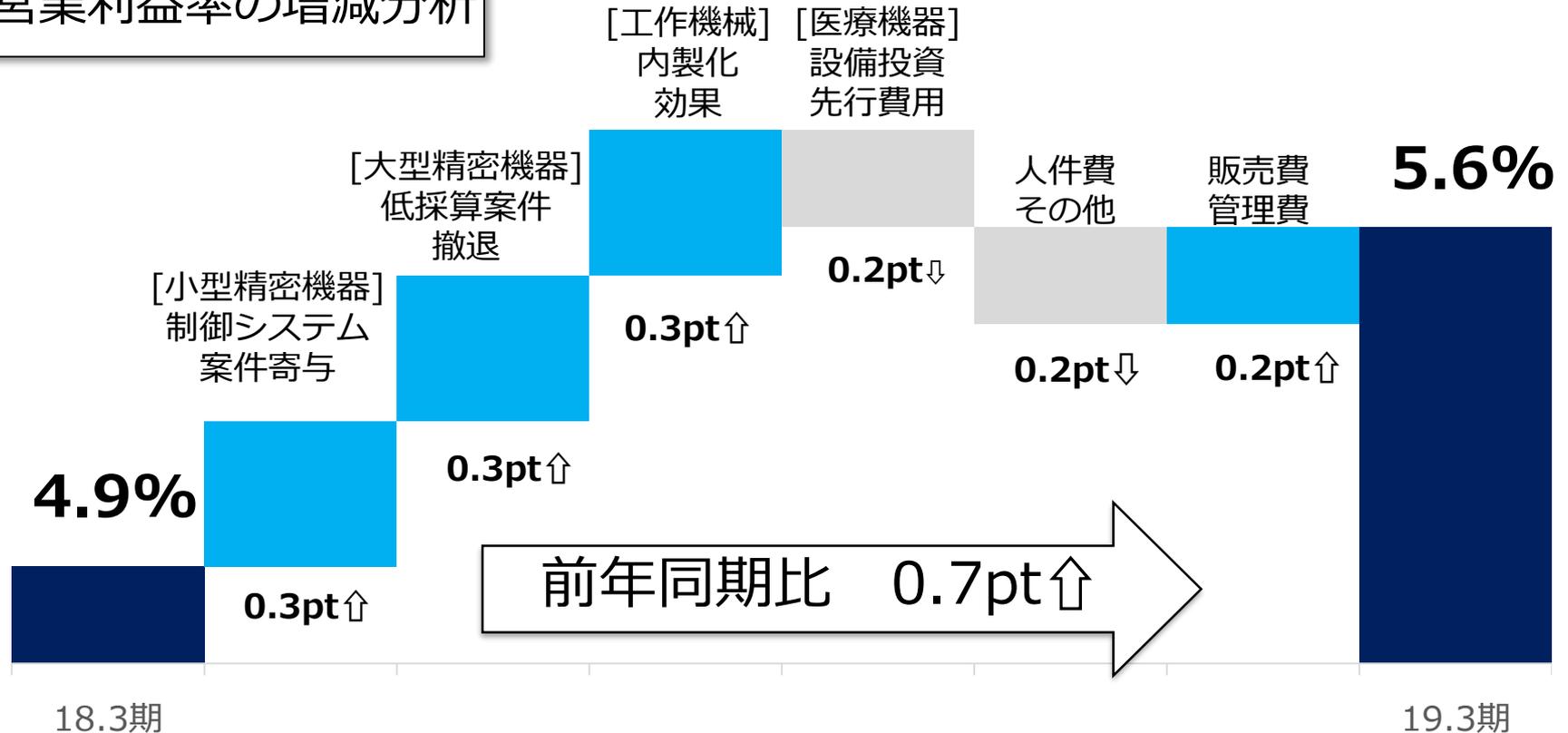
(単位：百万円)

	2018.3期	2019.3期	前期比 増減率	予想比 増減率
売上高	16,623	17,631	+6.1%	+6.9%
売上原価 (売上原価率)	13,503 (81.2%)	14,236 (80.7%)	+5.4%	—
売上総利益 (売上総利益率)	3,120 (18.8%)	3,395 (19.3%)	+8.8%	—
販管費 (販管費率)	2,303 (13.9%)	2,414 (13.7%)	+4.8%	—
営業利益 (営業利益率)	817 (4.9%)	980 (5.6%)	+20.0%	+9.0%
経常利益 (経常利益率)	711 (4.3%)	883 (5.0%)	+24.1%	+9.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	459 (2.8%)	586 (3.3%)	+27.7%	+22.3%
1株当たり 当期純利益(円)	82.31	105.14	+27.7%	+22.3%

# 1-1-2. 2019年3月期 決算概要

- ・ 前期獲得の制御システム案件が年間を通じ利益に寄与
- ・ 設備投資を行いながらも、低採算案件撤退及び内製化等により利益率改善

## 営業利益率の増減分析



# 1-2-1. 2019年3月期 取扱製品群別 決算概要

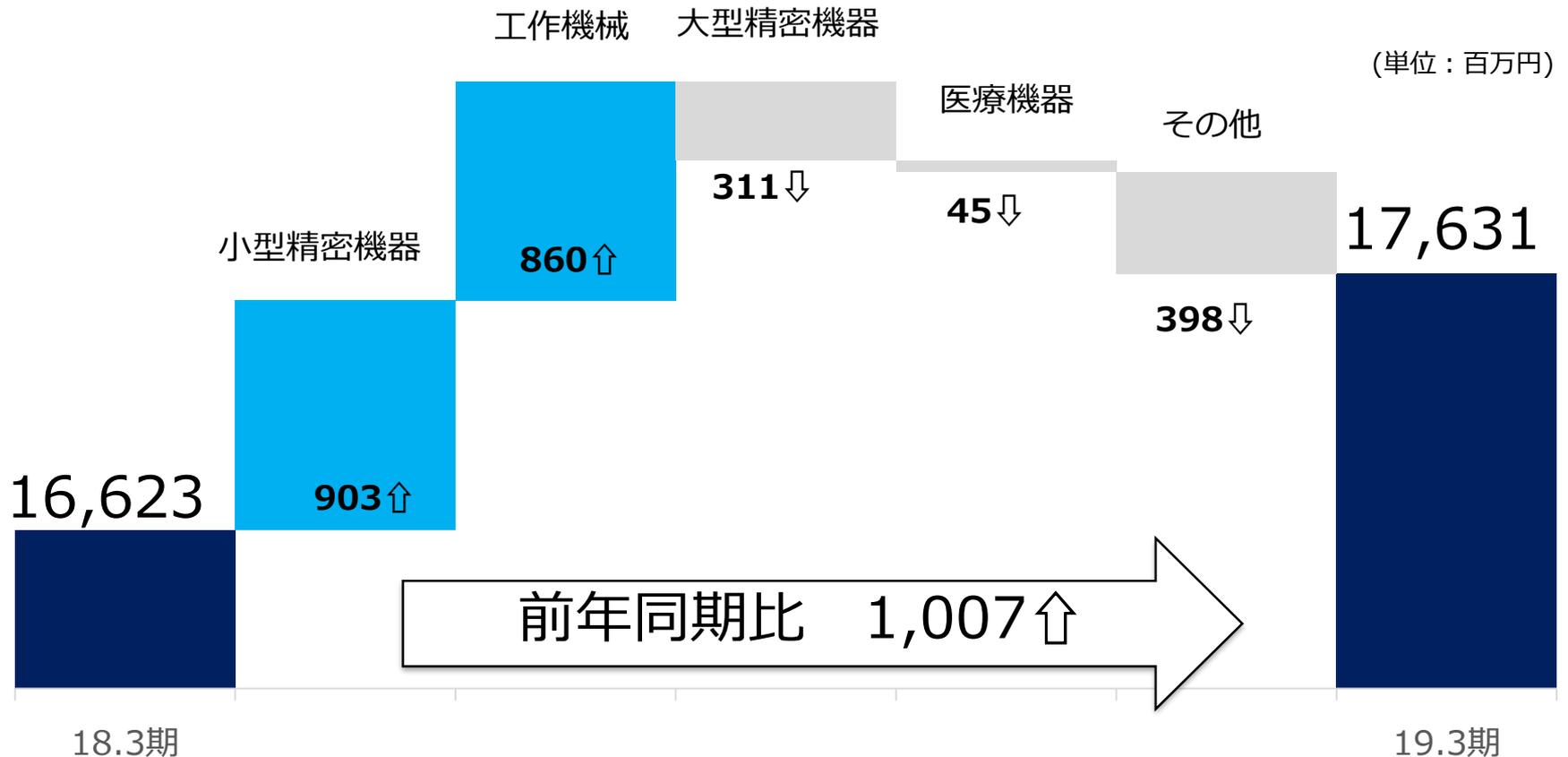
- ・ **小型精密機器**：前期獲得の制御システム案件寄与
- ・ **工作機械**：取扱いが想定を超え、大幅増収

(単位：百万円)

取扱製品群	2018.3期	2019.3期	構成比	前期比 増減率	予想比 増減率	
売上高	小型精密機器	6,573	7,476	42.4%	+13.7%	+4.7%
	大型精密機器	3,028	2,717	15.4%	▲10.3%	+3.3%
	医療機器	1,970	1,925	10.9%	▲2.3%	▲6.6%
	工作機械	3,743	4,604	26.1%	+23.0%	+24.8%
	その他	1,307	908	5.2%	▲30.5%	▲7.3%
	合計	16,623	17,631	100.0%	+6.1%	+6.9%

# 1-2-2. 2019年3月期 取扱製品群別 決算概要

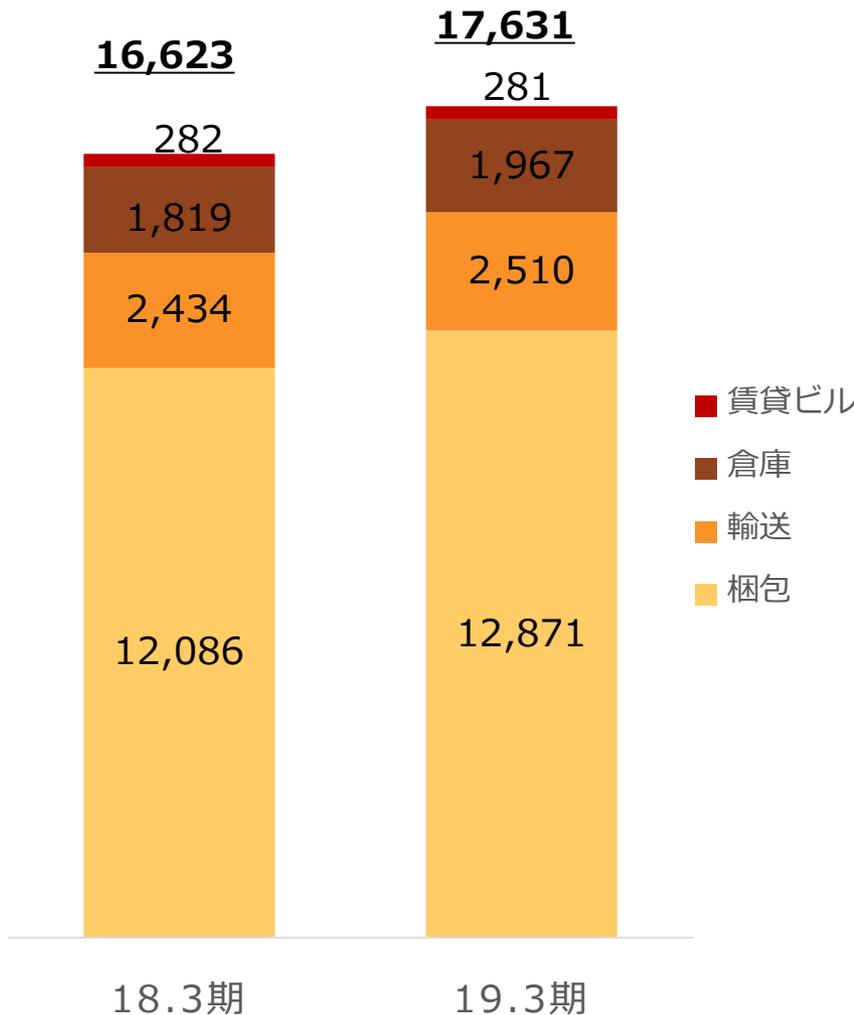
## 製品群別売上高の増減分析



# 1-3. 2019年3月期 セグメント別 決算概要

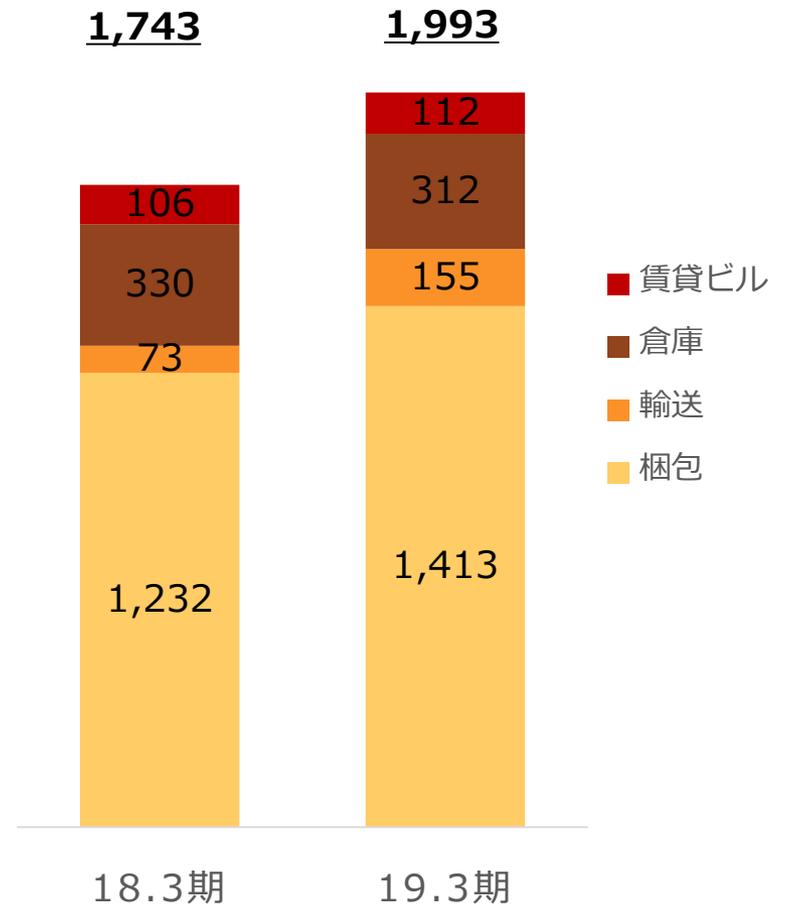
## 売上高

(単位：百万円)



## セグメント利益

(単位：百万円)



# 1-4. 2019年3月期 地域別売上高 決算概要

## ・ 米国 工作機械の取扱いが堅調に推移し、増収

(単位：百万円)

	2018.3期	2019.3期	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	15,763	16,726	94.9%	+962	+6.1%
中 国	146	140	0.8%	▲5	▲4.0%
米 国	714	765	4.3%	+51	+7.2%
合 計	16,623	17,631	100.0%	+1,007	+6.1%

1. 2019年3月期 決算概要 P 2
- 2. 中期経営計画の進捗状況 P 9**
3. 2020年3月期 業績予想 P16
4. Appendix P27

## 2-1. ビジョン

ビジョン(中長期的に目指す姿)

# オペレーションから ソリューションへ

- ・ 創業当時、梱包はソリューションであった
- ・ その後 JIS規格を作ったことによりオペレーションに
- ・ もう一度ソリューションが提供できる企業へ

→顧客の生産性の向上・コストダウンに寄与する  
ソリューションを提供する

## 2-2. 当社の事業領域と取扱製品群別ターゲット

	庫内 ※1 オペレーション	保管	梱包	流通加工	通関	配車・輸送
小型精密機器	○	○	◎	○	○	△
大型精密機器	○	○	◎	○	○	△
医療機器	○	◎	○	○	—	○
工作機械	△	—	◎	○	○	○
その他	○	○	—	—	△	○

◎・・・強み、または経験値が高い事業領域

○・・・取扱実績があるが、他社との差別化までいかない事業領域

△・・・取扱実績があるが、まだ弱く、強化していきたい事業領域

※1：庫内オペレーション

…倉庫内入出庫作業やその管理

### 取扱製品群別の主な特徴

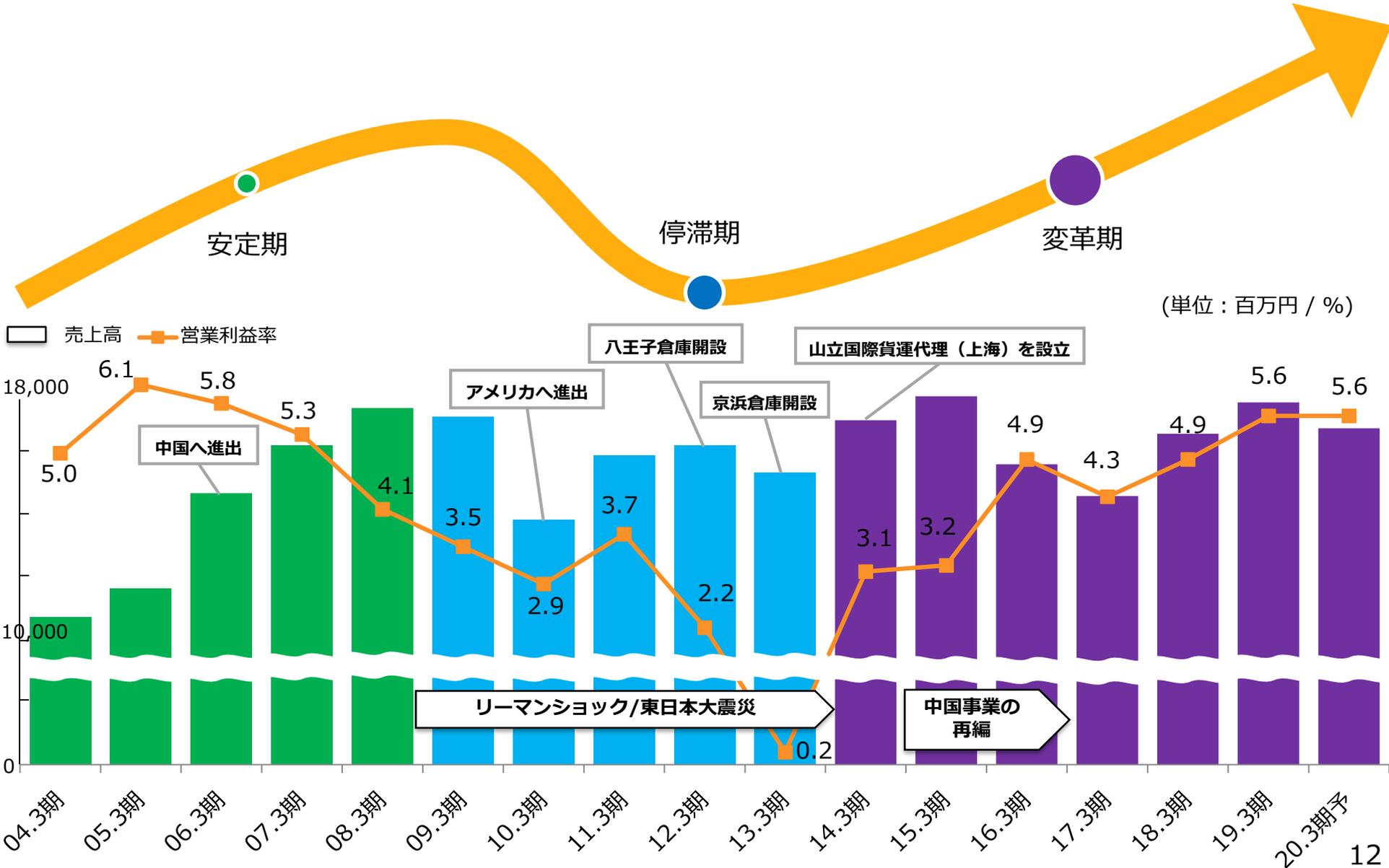
#### ◆小型精密機器／大型精密機器：

日系企業を中心に工場構内や近隣倉庫にて、顧客に密着した物流業務を展開

#### ◆医療機器：医療機器製造業の免許取得と設備の整った倉庫をベースに、外資系企業を中心に日本における国内物流をサポート

#### ◆工作機械：日・中・米各拠点とも大型設備を保有し梱包を実施、自社物流ライセンスで国際物流を展開

# 2-3. 業績推移 / 収益体質改善、利益水準向上へ



## 2-4-1. 中期経営計画の概要

- ・ 売上目標は前倒して実現／営業利益率は概ね達成の予想

### 【中期経営計画】

(単位：百万円)

	2018.3期 計画	2019.3期 計画	2020.3期 計画	2017.3期 比伸び率
売上高	14,800	16,500	16,500	+12.8%
営業利益	690	900	950	+51.5%
営業利益率	4.7%	5.5%	5.8%	+1.5pts

### 【実績と予想】

	2017.3期 実績	2018.3期 実績	2019.3期 実績	2020.3期 予想	2017.3期 比伸び率
売上高	14,626	16,623	17,631	16,800	+14.9%
営業利益	627	817	980	940	+49.9%
営業利益率	4.3%	4.9%	5.6%	5.6%	+1.3pts

## 2-4-2. 中期経営計画の概要

### 【国内物流事業】

#### 1. 精密機械／医療機器

- ・ ノンアセット型新拠点を開設
- ・ 「立地」×「ソリューション営業」×「庫内オペレーションの高度化」で他社と差別化

#### 2. 工作機械

- ・ 現キャパシティで既存顧客の取引深耕により収益を維持

### 【海外物流事業】

#### 1. 顧客に合わせたカスタムメイドの 国際輸送ネットワーク構築

#### 2. 当社の梱包技術で事業拡大

## 2-5. 中期経営計画の進捗状況

### 【国内物流事業】

#### 1. 精密機械／医療機器

(1) ノンアセット型新拠点を開設（目標 17.3月期比 5,000坪増）

・ 19.3月期までの進捗：3,400坪

→2,100坪（成田地区）

→1,300坪（北関東地区）

・ 20.3月期計画 : 1,600坪増

(2) 「立地」×「ソリューション営業」×「庫内オペレーションの高度化」で他社と差別化

・ 19.3月期までの進捗：医療機器の顧客向け AutoStoreの導入

・ 20.3月期計画 : マテハン機器活用による省力化の推進

#### 2. 工作機械

現キャパシティーで既存顧客の取引深耕により収益を維持

・ 19.3月期までの進捗：現有設備・労働力フル稼働キャパシティー超

・ 20.3月期計画 : 低採算案件の撤退

1. 2019年3月期 決算概要 P 2
2. 中期経営計画の進捗状況 P 9
- 3. 2020年3月期 業績予想 P16**
4. Appendix P27

## 3-1. 2020年3月期 業績予想

- ・ 前期比減収減益も、利益率は前期同水準を維持
- ・ 2020年以降の成長に向け経営資源を投入

(単位：百万円)

	2019.3期	2020.3期 予想	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	17,631	16,800	▲831	▲4.7%
営業利益 (営業利益率)	980 (5.6%)	940 (5.6%)	▲40	▲4.1%
経常利益 (経常利益率)	883 (5.0%)	850 (5.1%)	▲33	▲3.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	586 (3.3%)	520 (3.1%)	▲66	▲11.4%
ROE (自己資本利益率)	7.6%	6.5%	▲1.1pts	—
1株当たり 当期純利益(円)	105.14	93.15	▲11.99	▲11.4%
1株当たり 配当(円)	28	28	—	—

【参考】 ◆設備投資 19.3期実績 5億円 20.3期予想：12億円  
 ◆減価償却 19.3期実績 7億円 20.3期予想：7億円

## 3-2-1. 2020年3月期 取扱製品群別 業績予想

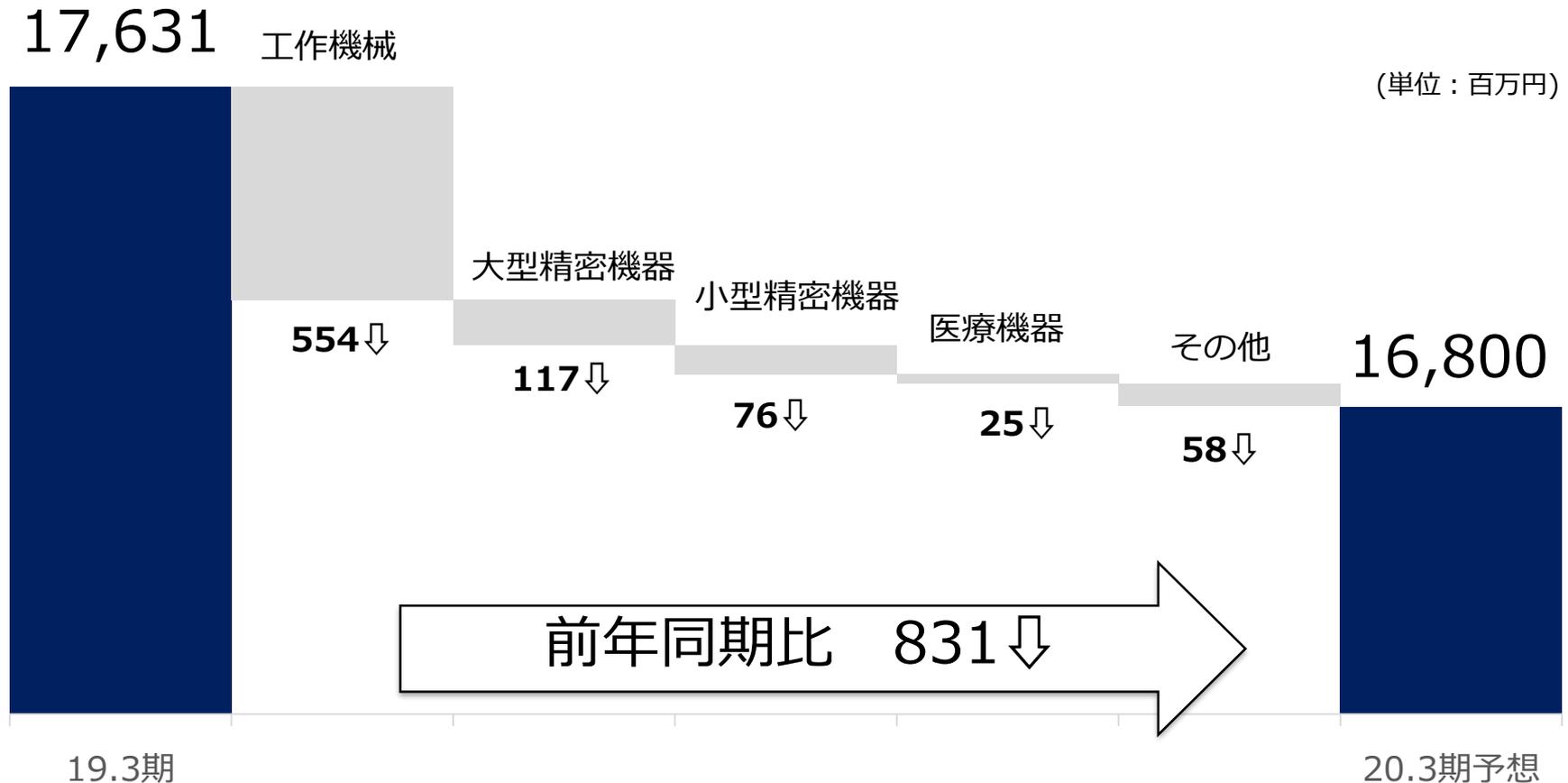
- ・ **工作機械** : 世界経済の停滞懸念及び低採算案件からの撤退により減収
- ・ **大型精密機器** : 下期からの回復に期待するも減収

(単位：百万円)

	取扱製品群	2019.3期	2020.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	小型精密機器	7,476	7,400	44.0%	▲76	▲1.0%
	大型精密機器	2,717	2,600	15.5%	▲117	▲4.3%
	医療機器	1,925	1,900	11.3%	▲25	▲1.3%
	工作機械	4,604	4,050	24.1%	▲554	▲12.0%
	その他	908	850	5.1%	▲58	▲6.5%
	合 計	17,631	16,800	100.0%	▲831	▲4.7%

# 3-2-2. 2020年3月期 取扱製品群別 業績予想

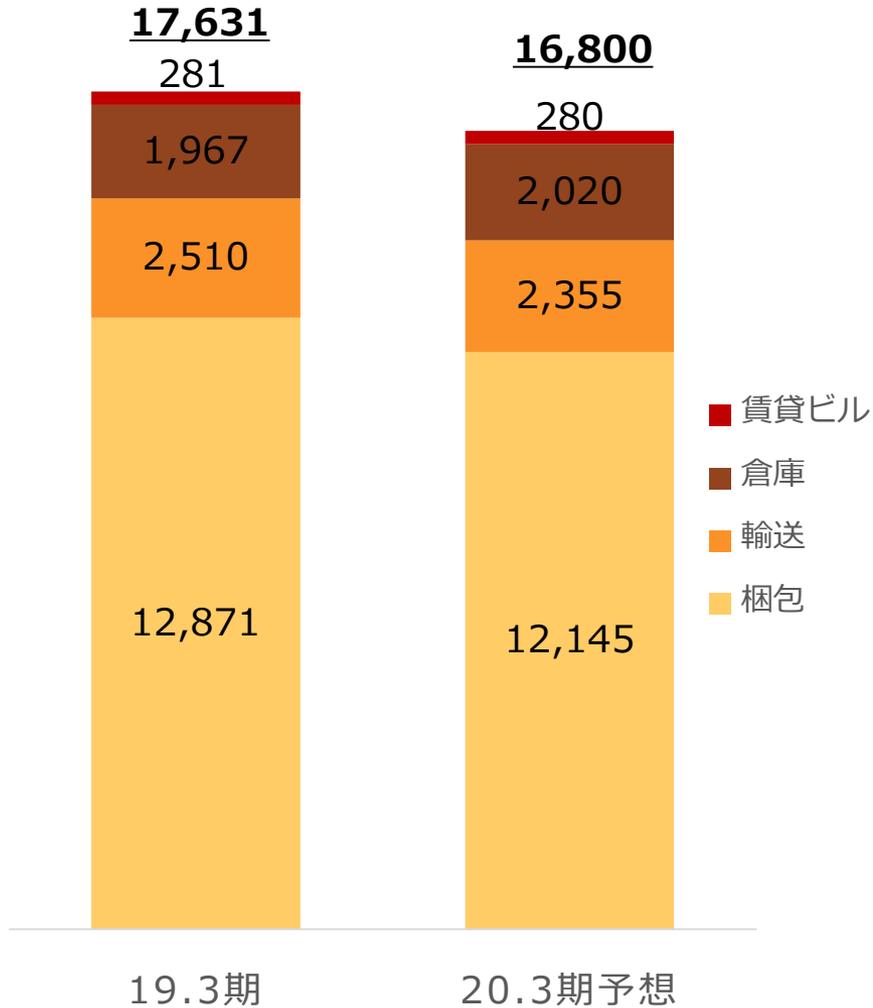
## 製品群別売上高の増減分析



# 3-3. 2020年3月期 セグメント別 業績予想

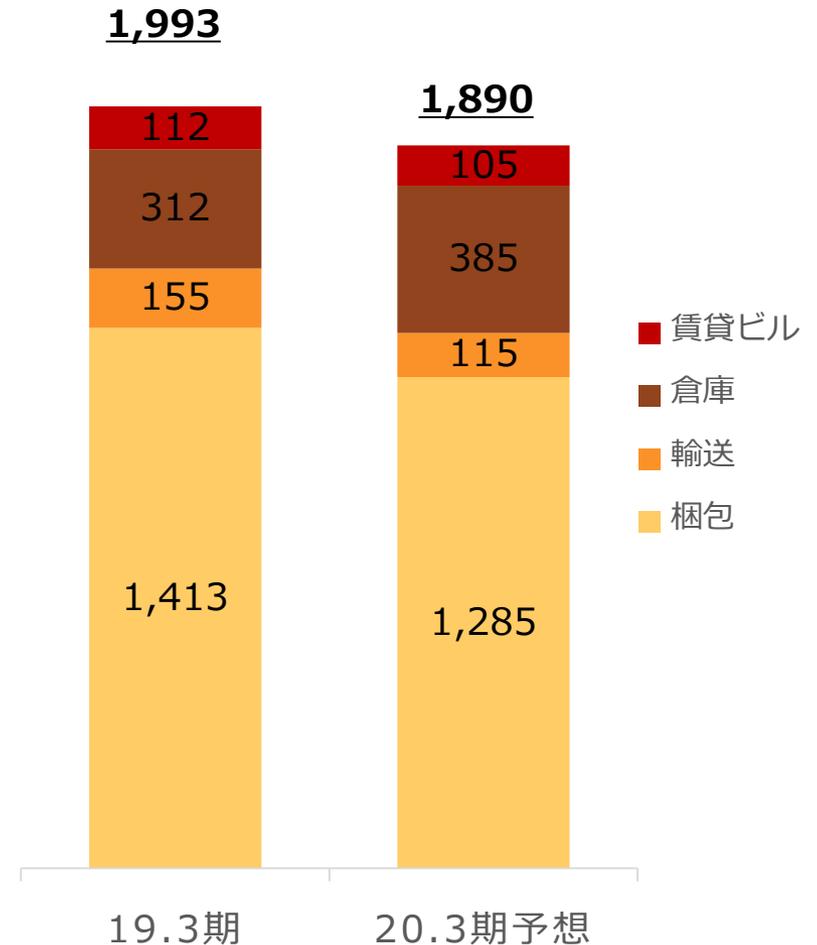
## 売上高

(単位：百万円)



## セグメント利益

(単位：百万円)



## 3-4. 2020年3月期 地域別売上高予想

### ・ 米国 新倉庫建設による事業拡大により増収

(単位：百万円)

	2019.3期	2020.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	16,726	15,650	93.1%	▲1,076	▲6.4%
中 国	140	150	0.9%	+9	+6.9%
米 国	765	1,000	6.0%	+234	+30.6%
合 計	17,631	16,800	100.0%	▲831	▲4.7%

為替レート 2020.3期 1ドル=106円 1人民元=15.7円

## 3-5-1. 新しい取り組み

### 【海外物流事業】

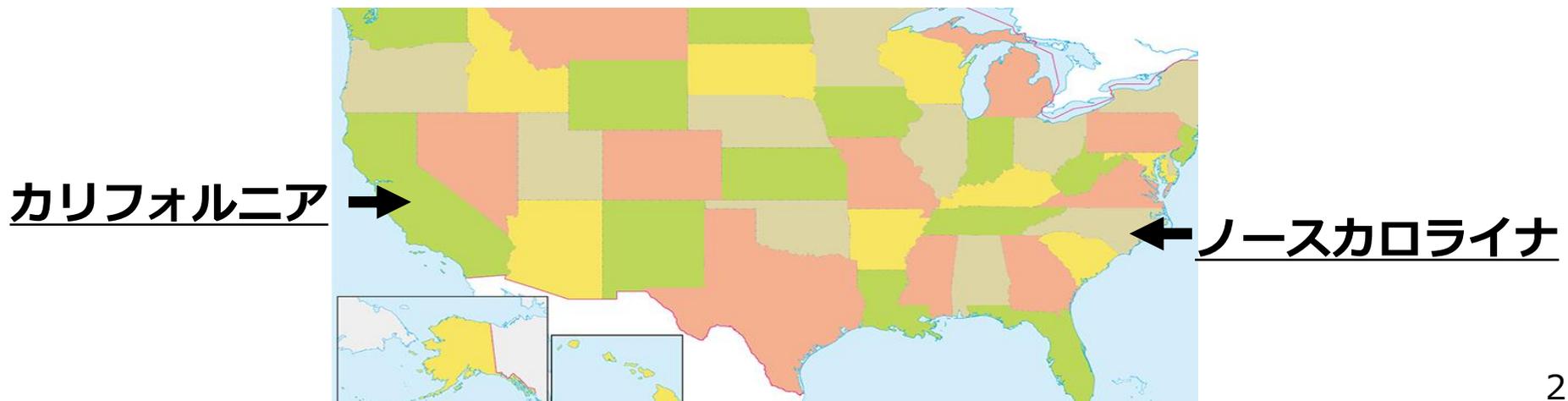
SANRITSU LOGISTICS AMERICA Inc.社

所在地：米国カリフォルニア州（西海岸）

設立年月：2010年3月

主要事業：梱包事業／運輸事業／倉庫事業

- ◆ ノースカロライナ州（東海岸）へ新倉庫建設  
竣工予定：2019年10月



## 3-5-2. 新しい取り組み

### ◆新倉庫の概要

敷地：80,937m<sup>2</sup>(24,526坪) ※東京ドーム2個分相当

延床面積：4,628.09m<sup>2</sup>(1,400坪)

主要設備：オーバーヘッドクレーン25 t 3基・5 t 1基，  
トラックスケール，溶煙設備(工場機能完備)



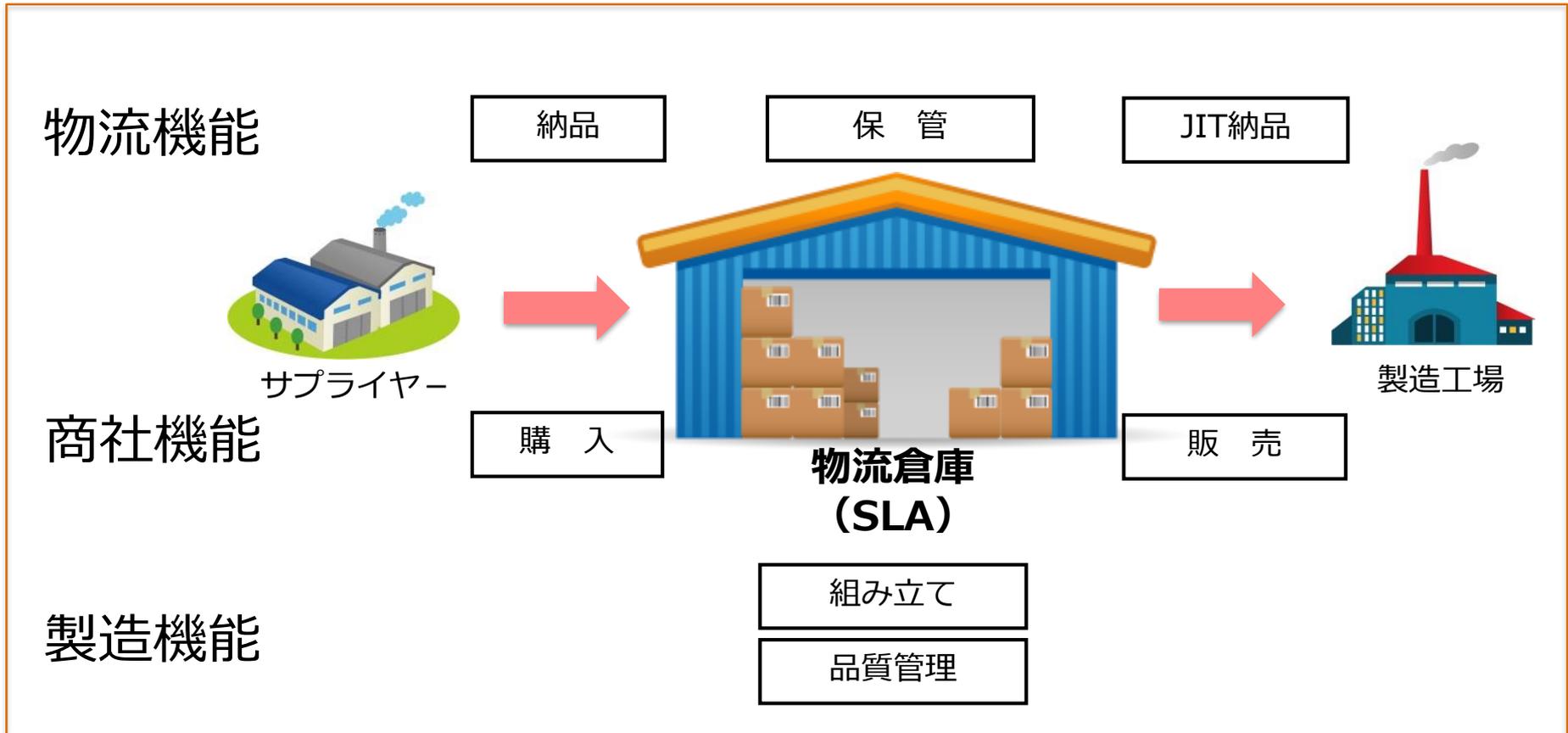
工事状況(2019年5月29現在)



完成予定図

### 3-5-3. 新しい取り組み

#### ◆SLAのビジネスモデル



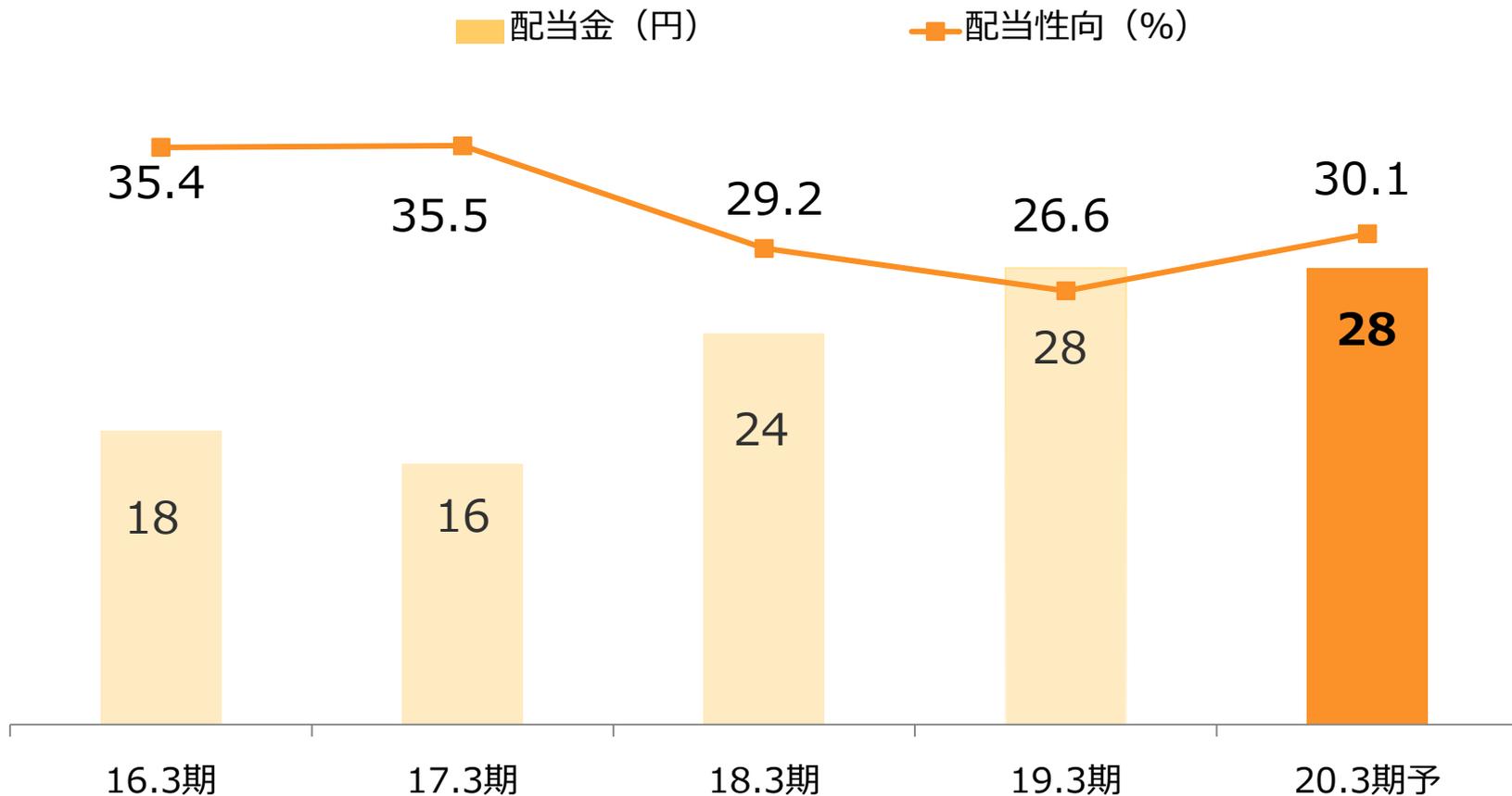
物流会社が行う商社機能 + 製造現場へ密着した調達

**=サンリツ独自のSCM構築へ**

## 3-6.配当について

**2019.3期：過去最高の1株あたり28円を予定**

**2020.3期：過去最高配当を維持**



※2019.3期の年間配当は定時株主総会で決議予定

※配当性向30%程度とすることを基本方針としている

※ 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

問い合わせ先：企画部 03-3471-0463

1. 2019年3月期 決算概要 P 2
2. 中期経営計画の進捗状況 P 9
3. 2020年3月期 業績予想 P16
- 4. Appendix P27**

# 【参考】2019年3月期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2018.3期	2019.3期	前期比 増減	負債 純資産の部	2018.3期	2019.3期	前期比 増減
流動資産	5,700	5,819	▲39	流動負債	4,489	4,544	+55
有形固定資産	11,816	11,631	▲184	固定負債	7,423	6,775	▲648
無形固定資産	75	23	▲52	負債合計	11,913	11,319	▲593
投資その他の資産	1,961	1,903	+100	純資産合計	7,640	8,057	+416
固定資産合計	13,853	13,558	▲136				
資産合計	19,554	19,377	▲176	負債・純資産 合計	19,554	19,377	▲176

◆設備投資 5億43百万円

◆減価償却費 7億78百万円

# 【参考】2019年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018.3期	2019.3期	主な要因
期首残高	1,424	1,658	
期中増減額	+233	▲213	
営業活動によるキャッシュフロー	+1,152	+1,037	税金等調整前当期純利益や減価償却費による資金の留保等によりプラス
投資活動によるキャッシュフロー	▲313	▲635	固定資産の取得等による支出によりマイナス
財務活動によるキャッシュフロー	▲605	▲609	有利子負債の減少による支出によりマイナス
換算差額	+0	▲5	
期末残高	1,658	1,444	

## 【参考】梱包事業について

### ■ 進駐軍搬入の特別仕様の梱包指名を受ける

米軍の精密機器をミル規格に則って梱包しなければならなかったが規格に則ってきちんと梱包していた為、高い評価を受け、検査官からの信用も得ていた。

### ■ 防衛庁(現防衛省)から精密機器の輸送・梱包の仕事

「防衛庁規格」=ミル規格を参考に作成された非常に厳しい規格。  
しかし、当社はこれを得意としており、防衛庁の検査官からも当社は高い評価を得ていた。

→「梱包が難しいものならサンリツに」といわれるまでに、信用されていた。

**「信用」と「高い梱包技術」が当社の財産**

# 【参考】事業概要

## 梱包事業

- 小さな精密機器から超重量貨物までの梱包を多岐に渡り対応
- 製品形状や特質・送り先（国内外）・輸送状況を考え、製品の品質を保つ
- コスト的にも最善な梱包形態を提供

## 運輸事業

- 精密機器、電機通信機器、計測器、医療機器などエレクトロニクス関連の製品を中心に低コストで配送
- 協力会社のサポートによる全国配送も可能
- 引越など輸送に関わる幅広い業務を行う

## 倉庫事業

- 空調を完備した快適な環境
- 24時間フルタイム管理・警備対応
- 梱包工場としての機能を有しており、流通加工、開梱並行処理拠点として機能していることに加えて、取扱製品に応じた設備を有する

## 国際物流

- ・ 保税蔵置場に梱包工場を併設
- ・ 梱包から保税蔵置・通関そして港湾・空港への輸送にいたるまで自社で対応
- ・ NVOCC（外航利用運送事業者）として船会社からスペースを買い取ることで、目的地までの最適な輸送方法を、一貫した運用責任の下、提供する

## 3PL

- ・ 物流改革の提案を行い、物流業務を包括的に引受ける
- ・ 高度な梱包技術と包装設計を駆使し、自社内での梱包、輸配送、保管、在庫管理、保税通関、エンドユーザーまで届けている

## 包装設計

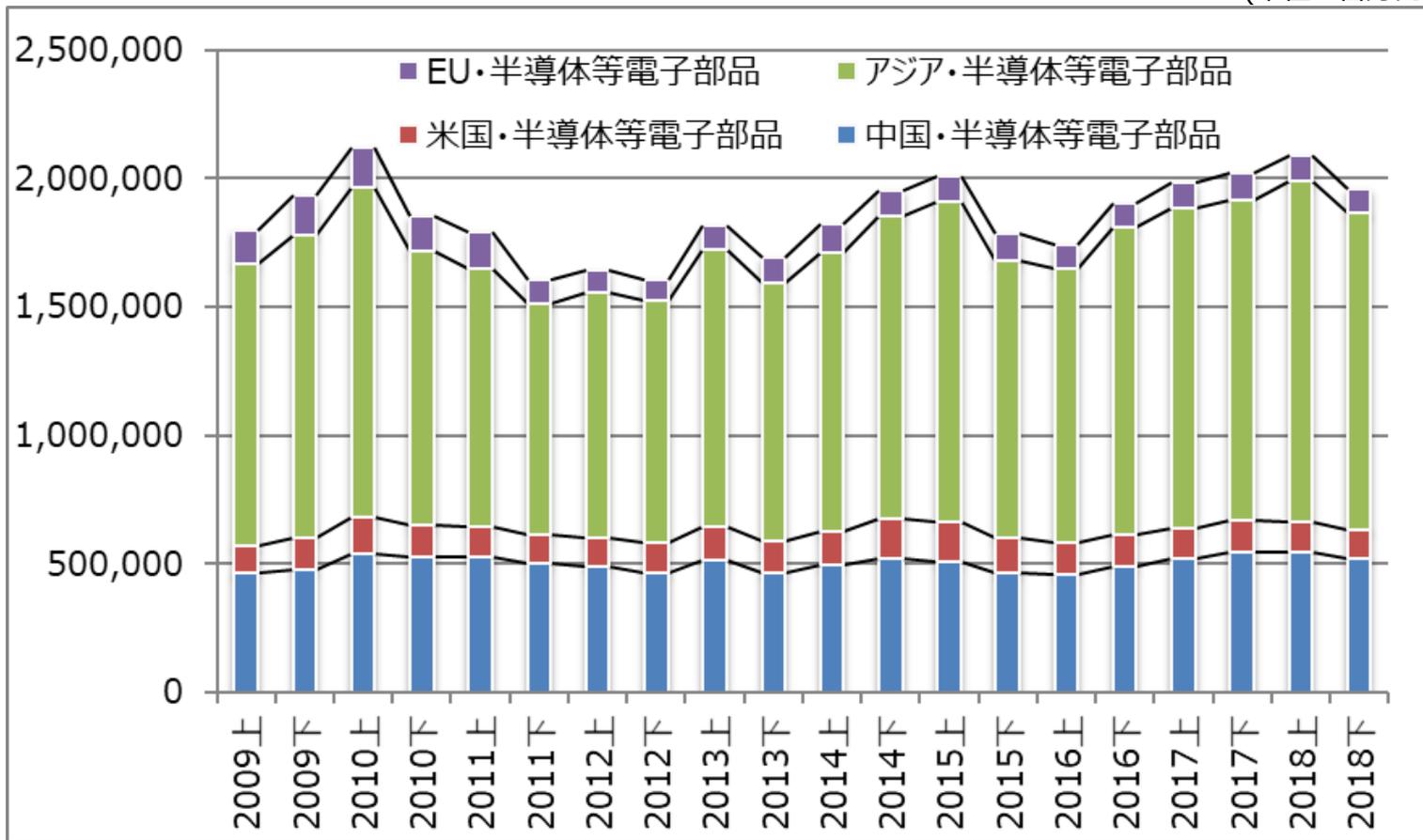
- ・ 取扱製品が多岐に渡るため、様々な包装技術・技法及び材料を採用している
- ・ 地球環境保護問題に対応した包装技術・技法の改善、向上を図っている
- ・ 常に新包装技術の開発を行っている

# 【参考】2019年3月期 外部環境

## 品目別輸出金額 年別推移（半導体等電子部品等）

※半導体等電子部品…熱電子管、個別半導体、ICなど

(単位：百万円)

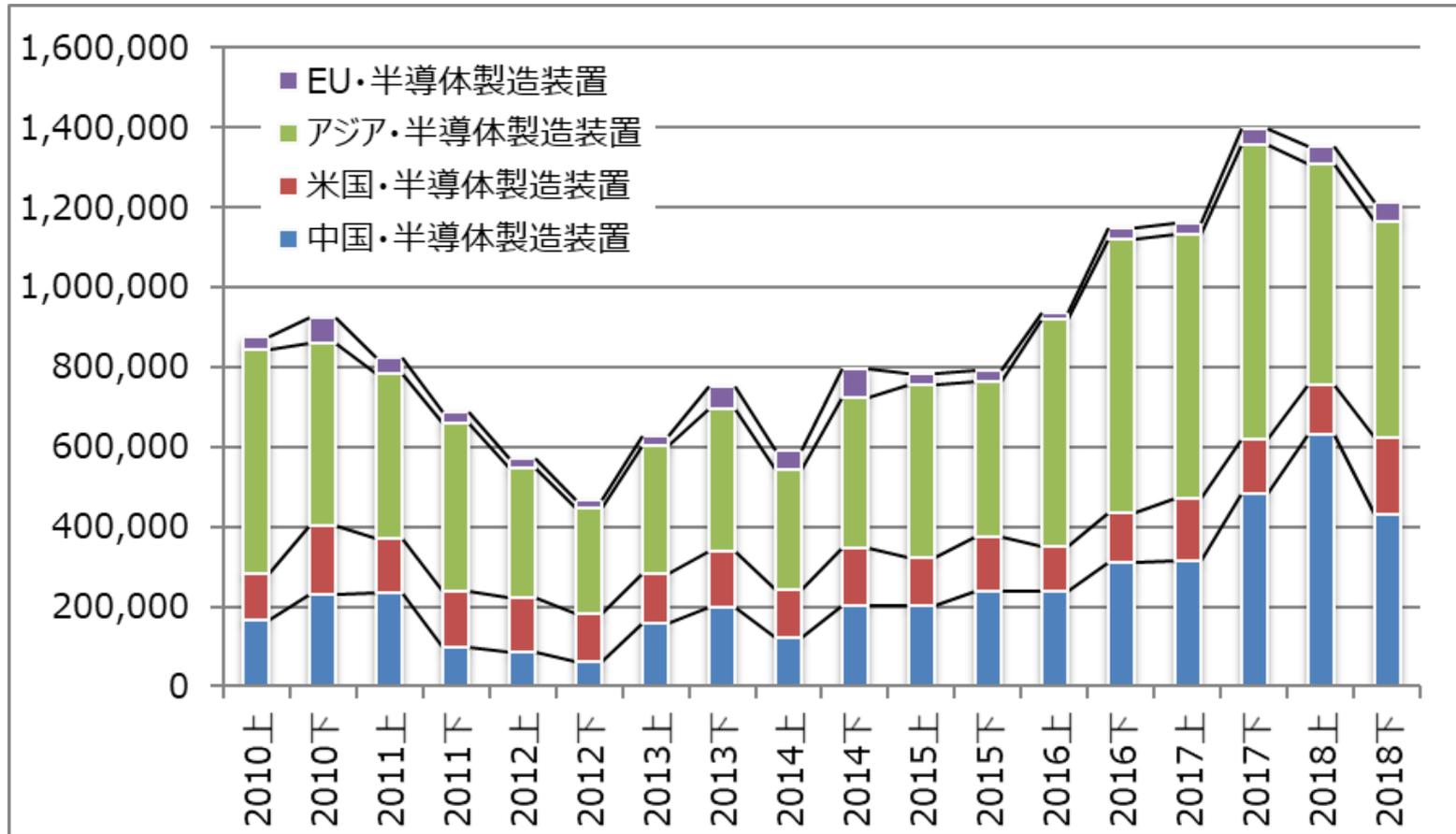


- ・ここ数年需要の拡大に伴い高水準が続いていたが、2018年下期より軟調に推移。

# 【参考】2019年3月期 外部環境

## 品目別輸出金額 年別推移（半導体製造装置）

(単位：百万円)

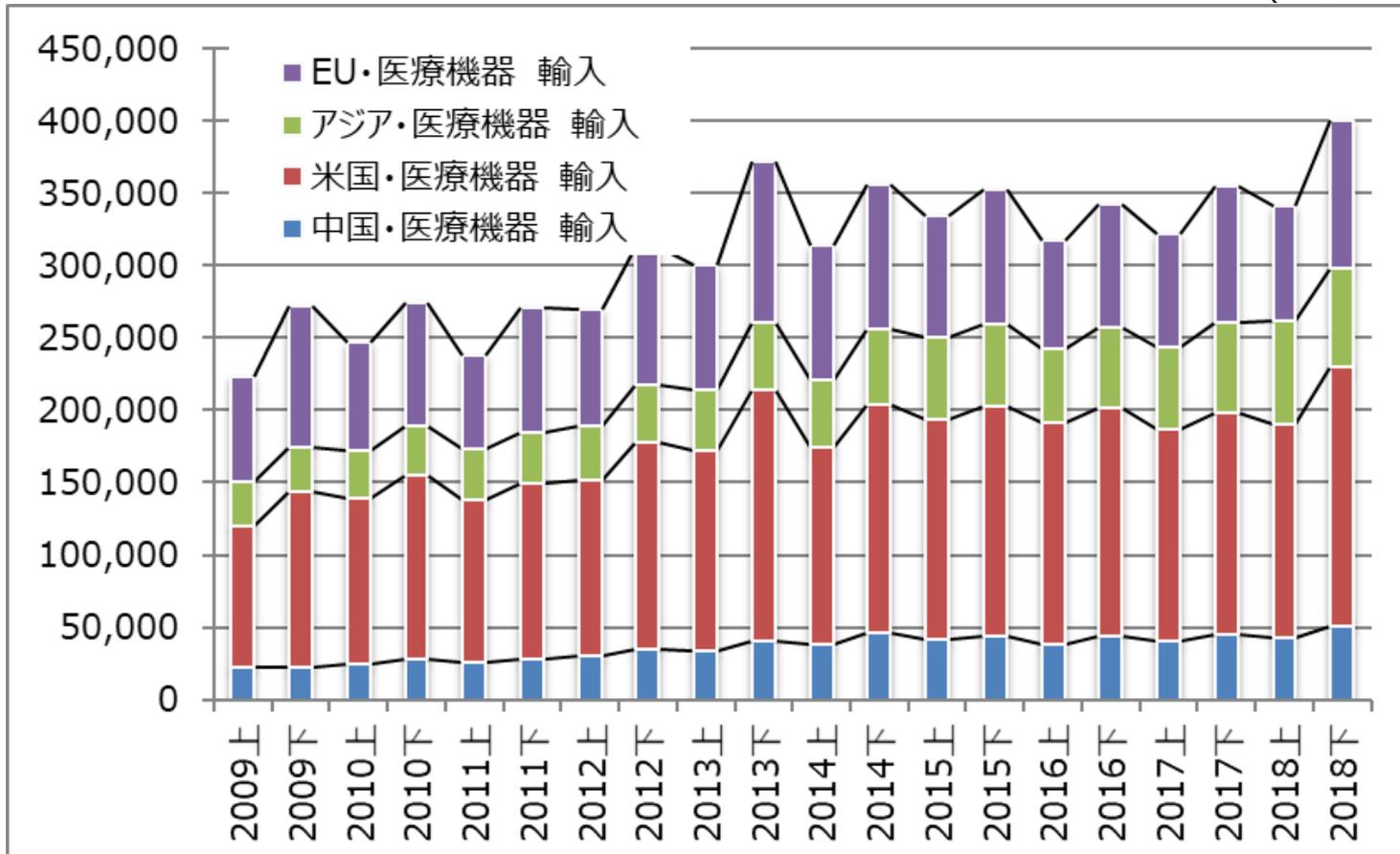


- ・ 2018年上期は前期より減少するも高水準に推移、2018年下期は軟調に推移。
- ・ 当社の取扱いについても2018年下期より軟調に推移。

# 【参考】2019年3月期 外部環境

## 品目別輸入金額 年別推移 (医療機器)

※医療機器…医療用または獣医用機器、診断用電気機器、エックス線などを使用する機器など  
(単位：百万円)



- ・医療の高度化や高齢化に伴い、国内需要は拡大。
- ・しかしながら当社の取扱いはメーカーの取扱い鈍化の影響もあり弱含み。

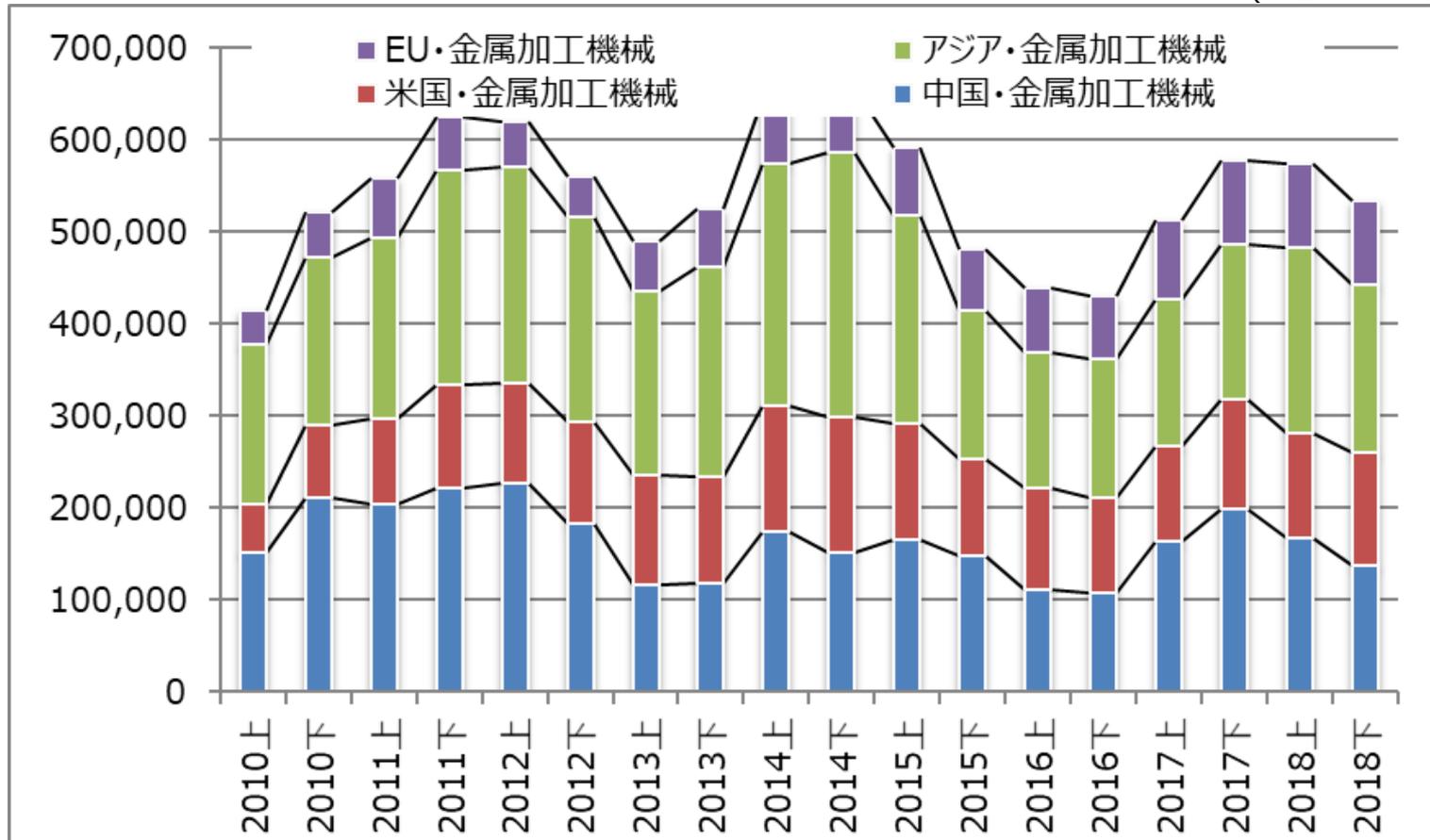
出典：財務省貿易統計より

# 【参考】2019年3月期 外部環境

## 品目別輸出金額 年別推移（金属加工機械）

※金属加工機械…旋盤、研削盤、金属加工用のマシニングセンターなどその他の加工機械

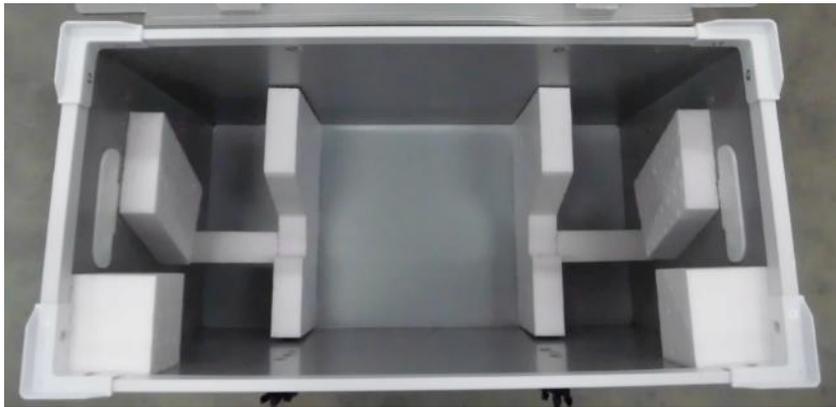
(単位：百万円)



- ・ 業界全体として右肩上がりで推移していたが2018年下期より軟調に推移。
- ・ シクリカルな業界動向及び米中貿易摩擦等の懸念から当社取扱いは弱含み。

# 【参考】 TOPIX

「モニターの傾きに関係なく梱包できる通い箱」 **アジアスター賞受賞**



※アジア包装連盟-APF-(Asian Packaging Federation)

パッケージングコンテスト

「Asia Star 2018」のトランスポート部門にて受賞

**お客様の生産性の向上・  
コストダウンに寄与する  
ソリューションを提供**

## 【参考】スポーツ振興

### ◆天皇杯・皇后杯 平成30年度全日本卓球選手権大会 女子ダブルス第3位入賞！

- ・国内最高峰レベルの大会にて、  
昨年につき2大会連続のメダルを獲得

### ◆地域交流会に講師として参加

- ・約80名の参加者と、卓球を通じた交流を実施



松本優希選手(左)と平侑里香選手(右)



地域交流会での集合写真